

成果の説明書

(氏名) 佐藤英人	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>○教育上の成果に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本年度は、初年次ゼミ、演習Ⅰ、演習Ⅱ、都市地理学、都市地理学特論（大学院）を担当した。学生が予習できるように、毎回、レジュメを <b>Dropbox</b> で事前配布するように努めた。授業中はパワーポイントを利用して、図表や写真を提示するなど、イメージのしやすい授業運営を心がけた。加えて、学生との対話を大切にし、机間巡回の際、積極的に問かけをおこなった。その結果、「授業に関する学生アンケート（後期）」では、都市地理学（履修者 85 名）の総合評価が 90.6 点となり、大学全体の平均点（83.1 点）を大きく上回った。特に教員の話し方と学生の反応・意見等の活用の項目で高い評価を得た。</li><li>・ゼミ内生（2 年生）を対象としてプレゼミを実施した（隔週水曜日 5 時限）。プレゼミでは学生の興味関心に基づき、リチャード・フロリダ 2014『新 クリエイティブ資本論—才能が経済と都市の主役となる』、ダイヤモンド社、488p を輪読した。また、実際の都市構造や再開発の状況を考察するために、東京巡検（浅草～上野～東京）を 2017 年 12 月 23 日に実施した。</li><li>・演習Ⅰではグループ研究をおこなった。本年度のテーマは本庄市中心商業地の活性化であり、成果の一部は 2017 年 11 月 3 日に開催された三扇祭プレゼンテーション大会で発表した。加えて、演習Ⅰでは毎年、海外巡検を実施している。現地集合・現地解散を基本とし、セミ生が独力で海外渡航できる能力の涵養に努めている。本年度は 2017 年 9 月 1 日～3 日に東アジア地域の拠点ある香港を訪れた。</li></ul> <p>○研究上の成果に関する事項</p> <p>1) 学会発表・講演会等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・佐藤英人・鈴木智「郊外住宅地における高齢化と空き家に対する住民意識—高崎市南陽台住宅地の質問紙調査を基にして—」, 日本地域政策学会【千葉大会】第 1 分科会（都市）, 中央学院大学, 2017 年 7 月 2 日</li><li>・佐藤英人「人口減少社会と対峙する郊外住宅地のゆくえ—高崎市の事例を中心に—」, 群馬地理学会 第 25 回研究発表会, 群馬県庁昭和館, 2017 年 10 月 15 日</li></ul> <p>2) 競争的研究資金等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「空家特別措置法施行後の空家対策に関する総合的研究」, 高崎経済大学地域科学研究所 平成 28-30 年度研究プロジェクト, 研究代表者：岩崎忠（継続）</li><li>・「長野壱の成立と歴史的役割に関する研究」, 高崎経済大学地域科学研究所 平成 29-31 年度研究プロジェクト, 研究代表者：西野寿章（新規）</li></ul> <p>○職務上の成果に関する事項</p> <p>1) 学外業務</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日本地理学会 理事（2016 年 6 月—現在）</li><li>・日本地理学会 財務専門委員会 副委員長（2016 年 6 月—現在）</li><li>・日本地理学会 編集専門委員会 委員（2016 年 6 月—現在）</li><li>・日本地域政策学会 関東支部 事務局長（2016 年 2 月—現在）</li></ul>	

## 2) 学内業務

- ・入試検討委員会の委員として定例会議に出席し、入試改革および合否判定等に参画した。広報活動の一環として、大学オープンキャンパスではゼミ紹介のパネル展示をおこなった。加えて、出前授業では青森県立八戸東高校へ出講した。
- ・本年度より教員免許状更新講習の講師を担当した。「郷土を知ろう(群馬の地理と歴史)」と題して、地理情報システム(GIS)を用いたPC実習をおこなった。

## 2 その他の事項

○現在、執筆中の論文は下記のとおりである。

- ・佐藤英人・清水千弘・唐渡広志「最寄駅徒歩圏居住に向けた中古集合住宅の役割—2000年代前半の東京大都市圏を事例として—」人文地理に投稿予定
- ・佐藤英人「人口減少社会における郊外住宅地のゆくえ」地域政策研究に投稿予定
- ・佐藤英人「郊外住宅地における高齢化と空き家に対する住民意識—高崎市N住宅地の質問紙調査を基にして—」高崎経済大学地域科学研究所 平成28-30年度研究プロジェクト成果報告書
- ・佐藤英人「未利用不動産に関する研究レビュー」高崎経済大学地域科学研究所 平成28-30年度研究プロジェクト成果報告書
- ・佐藤英人・中澤高志「不動産競売からみた郊外住宅地の新たな問題—東京大都市圏を事例として—」地理学評論に投稿予定
- ・佐藤英人「長野堰用水の発達と高崎市の成り立ち」地域科学研究所平成29-31年度研究プロジェクト成果報告書(コラム)

## 3 次年度以降の計画・抱負

教育上の計画としては、引き続き、授業改善にも積極的に取り組み、教員—学生間、学生間の双方向教育(集団討論の時間を増やすなど)を実践していきたい。研究上の計画としては、上記の論文を校了させることと共に、次年度より着手する地域科学研究所の研究プロジェクト「地方都市における中小製造業の存立基盤に関する研究」の海外調査を完遂させたい。